

2023年12月期 第3四半期 決算説明会

井関農機株式会社

2023年11月14日

1. 2023年12月期第3四半期 業績の概要
2. 国内外市場動向
3. 2023年12月期 業績予想
4. トピックス



1. 2023年12月期第3四半期 業績の概要

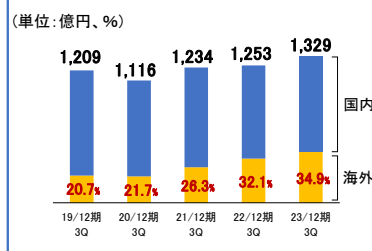


<第3四半期業績>

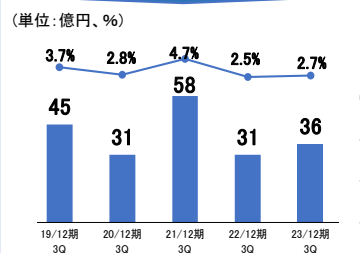
国内外増収、営業増益

- 国内 : 価格改定(4月)の駆け込み需要反動減はあるも
メンテナンス収入・施設工事の増加もあり全体では増収
- 海外 : 北米コンパクトトラクタ市場は調整局面継続も、欧州・アジアの増加により
全体では増収
- 収益 : 増収や価格改定効果などにより売上総利益は増益、率改善
販管費の増加もあって営業利益の増益幅は縮小

売上高推移(第3四半期)



営業利益・率 推移(第3四半期)



<通期業績予想>

足許の状況等踏まえ下方修正

(決算のポイント)

決算のポイントについて資料に記載の通り。

連結業績の概要

(2023年1月1日～2023年9月30日)

(単位:億円、%)

	19/12期 3Q実績	20/12期 3Q実績	21/12期 3Q実績	22/12期 3Q実績	23/12期 3Q実績	前年 同期比
売上高	1,209	1,116	1,234	1,253	1,329	+ 75
(国内)	959	874	909	850	865	+ 14
(海外)	249	241	324	402	464	+ 61
売上総利益	358	331	372	372	398	+ 25
売上総利益率	29.6%	29.7%	30.1%	29.7%	30.0%	+ 0.3%
営業利益	45	31	58	31	36	+ 4
営業利益率	3.7%	2.8%	4.7%	2.5%	2.7%	+ 0.2%
経常利益	32	28	65	38	38	0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	21	24	47	34	20	△ 14
為替平均 レート(円)	米ドル 109.6	107.8	107.8	124.9	136.4	+11.5
	ユーロ 123.2	120.6	129.6	133.9	147.1	+13.2

(連結業績の概要)

■前年同期比

<売上高>

- ・75億円増の1,329億円。
- うち、国内14億円、海外61億円のそれぞれ増収。

<収益面>

- ・営業利益:4億円増益の36億円。
- ・営業利益率:2.7%。
- ・当期純利益:14億減益の20億円。

前年同期比
+14億円

価格改定(4月)の駆け込み需要反動減などもあり農機製品は減収も、メンテナンス収入・施設工事の伸長により全体では増収

(単位:億円)		19/12期 3Q実績	20/12期 3Q実績	21/12期 3Q実績	22/12期 3Q実績	23/12期 3Q実績	前年 同期比
農機 製品 関連	整地機	213	173	188	181	170	△ 11
	栽培機	80	64	72	65	59	△ 5
	収穫調製機	141	119	117	114	113	0
	小計	434	357	378	361	344	△ 17
	作業機	171	152	179	152	154	+ 1
	部品	118	119	118	119	123	+ 4
	修理収入	43	44	45	44	45	+ 1
	小計	333	316	343	316	323	+ 7
	計	767	674	721	677	667	△ 9
	施設工事	40	56	36	32	48	+ 16
その他農業関連	152	143	151	140	148	+ 7	
合計	959	874	909	850	865	+ 14	

主な増減要因(前年同期比)

- ✓ 農機製品は価格改定実施に伴う4月以降の反動減などにより減収
- ✓ 収支構造改革の柱であるメンテナンス収入は伸長(部品、修理収入)
- ✓ 施設工事は大型工事により増加

(国内売上高)

国内売上高:865億円

■前年同期比: +14億円

- ・農機製品は価格改定後の反動減などにより△17億円。
- ・部品・修理収入など収支構造改革の柱であるメンテナンスにかかる売上は堅調に推移。
- ・施設工事は大型工事により+16億円。

海外売上高

前年同期比
+61億円

北米コンパクトトラクタ市場は調整局面継続も、欧州・アジアの増加により全体では増収

(単位:億円)	19/12期 3Q実績	20/12期 3Q実績	21/12期 3Q実績	22/12期 3Q実績	23/12期 3Q実績	前年 同期比
北米	101	92	113	131	107	△ 23
欧州	99	92	133	198	276	+ 77
アジア	44	54	73	67	70	+ 2
その他	3	2	3	5	10	+ 4
連結売上高 合計	249	241	324	402	464	+ 61

主な増減要因(前年同期比)

- ✓ 北米：コンパクトトラクタ市場の調整局面が継続し減少
- ✓ 欧州：値上げ後も小売店の需要が堅調に推移したことに加え、前年下期よりISEKIドイツを連結子会社化したこともあり増加
- ✓ アジア：中国向け生産用部品の出荷増により増加

(海外売上高)

海外売上高:464億円

■前年同期比: +61億円

<北米>

・小型コンパクトクラスで金融政策の変化等による調整局面が継続し△23億。

<欧州>

・値上げ後も現地小売店の需要が堅調に推移したことに加え、前年下期より連結化したISEKIドイツの影響もあり+77億円。

<アジア>

・中国向け生産用部品の出荷増により+2億円。

<その他>

・オセアニア等で+4億円。

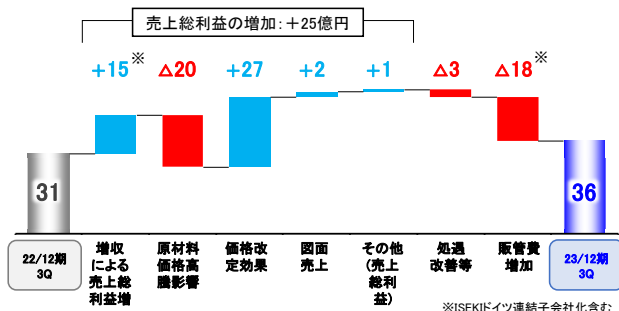
営業利益

前年同期比
+4億円

増収や価格改定効果などにより売上総利益は増益、率改善
販管費の増加もあって営業利益の増益幅は縮小

(単位:億円、%) 【営業利益増減内訳(前年同期比)】

	19/12期 3Q実績	20/12期 3Q実績	21/12期 3Q実績	22/12期 3Q実績	23/12期 3Q実績	前年 同期比
売上高	1,209	1,116	1,234	1,253	1,329	+ 75
売上総利益	358	331	372	372	398	+ 25
売上総利益率	29.6%	29.7%	30.1%	29.7%	30.0%	+ 0.3%
販管費	312	299	313	341	362	+ 21
人件費	183	179	185	193	206	+ 12
その他経費	129	119	128	147	156	+ 8
営業利益	45	31	58	31	36	+ 4
営業利益率	3.7%	2.8%	4.7%	2.5%	2.7%	+ 0.2%



【為替影響(億円)】

売上	原価	販管費	営業利益
+25	△17	△4	+4

(営業利益)

営業利益:36億円

■前年同期比: +4億円

- ・増収による売上総利益の増加15億円。
- ・販管費の増加もあり、+4億円にとどまる。
- ・原材料価格高騰影響は△20億円。
- ・販売価格改定効果は+27億円。前年同期比では第1四半期から継続して、価格改定効果が上回る。
- ・為替円安による影響は売上高で+25億円、営業利益+4億円。

経常利益、四半期純利益

経常利益
前年同期比
0億円

経常利益: ESGファイナンスの組成や有利子負債増に伴う金融費用増
 税前提利益: 前年同期に計上したISEKIドイツ連結子会社化による特別利益の剥落

(単位: 億円)	19/12期 3Q実績	20/12期 3Q実績	21/12期 3Q実績	22/12期 3Q実績	23/12期 3Q実績	前年 同期比
営業利益	45	31	58	31	36	+ 4
金融収支	△5	△5	△4	△5	△11	△ 6
その他営業外損益	△6	1	11	12	14	+ 1
経常利益	32	28	65	38	38	0
特別利益	1	6	0	8	0	△ 7
特別損失	△2	0	△2	△2	△1	0
税前提利益	31	34	63	44	37	△ 6
税、税調整額	△10	△10	△15	△9	△16	△ 7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	21	24	47	34	20	△ 14

【その他営業外損益の主な内訳】

(単位: 億円)	22/12期 3Q実績	23/12期 3Q実績
為替差益	10	11
持分法による 投資損失	△4	△3

【特別利益の主な内訳】

(単位: 億円)	22/12期 3Q実績	23/12期 3Q実績
段階取得に 係る差益	5	-
負ののれん 発生益	2	-

(経常利益、四半期純利益)

<経常利益>

■前年同期比: 0億円

- ・ ESGファイナンスの組成や主に海外子会社での有利子負債増に伴う金融費用の増加などにより、前年同期並みの38億円。
- ・ 為替差益: +1億円。
- 持分法による投資損失: △1億円。

<四半期純利益>

■前年同期比: △14億円

- ・ 前年同期に計上したISEKIドイツの連結子会社化による段階取得に係る差益及び負ののれん発生益の剥落などにより△14億円の20億円。

前年同期末比

国内農機製品の売上減少及び、下期から販売を開始した国内向け新型トラクタや前期低水準であった欧州向け在庫の積み増しにより棚卸資産が増加

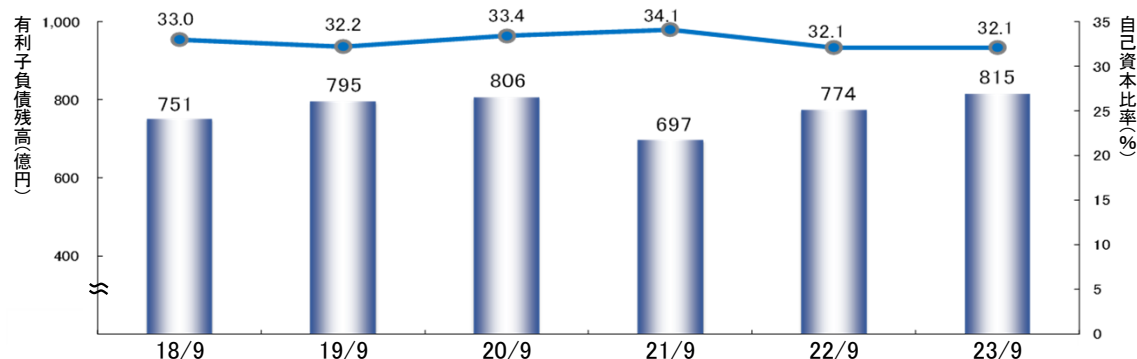
(単位: 億円)	22/9月末	23/9月末	前年同期末比		22/9月末	23/9月末	前年同期末比
現預金	151	93	△ 57	仕入債務	420	433	+ 12
売上債権	331	379	+ 47	有利子負債	774	815	+ 41
棚卸資産	620	718	+ 98	(借入金)	(700)	(744)	(+44)
(商品及び製品)	(504)	(609)	(+104)	その他負債	203	215	+ 11
(仕掛品)	(100)	(94)	(△6)				
その他流動資産	42	40	△ 1				
流動資産計	1,145	1,232	+ 86	負債合計	1,398	1,463	+ 64
有形固定資産	858	845	△ 12	純資産	725	760	+ 35
無形固定資産	24	23	△ 0	(利益剰余金)	(204)	(225)	(+20)
投資その他資産	95	122	+ 26				
固定資産計	978	991	+ 13				
資産合計	2,123	2,224	+ 100	負債純資産合計	2,123	2,224	+ 100

(バランスシート)

■前年同期末比:

- ・棚卸資産は国内農機製品の売上減少及び下期から販売を開始した国内向け新型トラクタや、前期低水準であった欧州向け在庫の積み増しにより98億円増加。
- ・売上債権は47億円増加。
- ・仕入債務は12億円増加。
- ・運転資本の増加を有利子負債41億円増、純資産35億円増、現預金57億円減により賄う。

有利子負債 D/Eレシオ 棚卸資産の増加見合いで有利子負債が増加 D/Eレシオは1.07倍



借入金・社債	688	723	727	622	700	744
リース債務	63	71	79	74	74	70
有利子負債 計	751	795	806	697	774	815
D/Eレシオ	1.05倍	1.14倍	1.14倍	1.03倍	1.07倍	1.07倍

※D/Eレシオ=有利子負債/純資産 ※リース債務を含む

(自己資本比率・有利子負債)

- ・棚卸資産増加見合いで有利子負債が増加しD/Eレシオは1.07倍。
- ・自己資本比率は32.1%。
- ・棚卸資産を縮減、売上債権の回収が進むことで、期末にかけて有利子負債は縮減が進むと考えている。

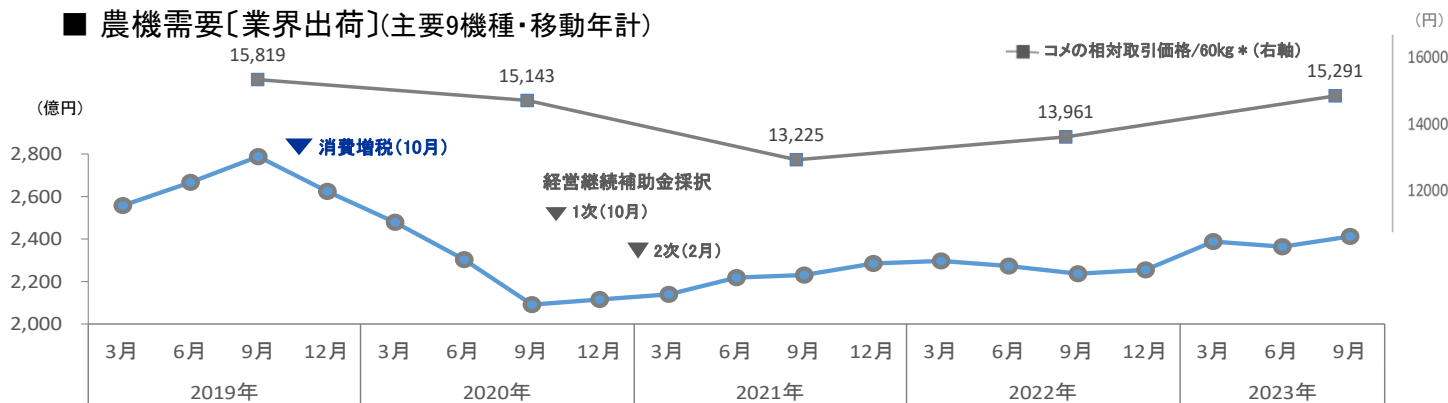
2. 国内外市場の動向



国内農機需要

各社価格改定(4月・7月)前の駆け込み需要が全体を押し上げ。
足許では米価下げ止まりも見られ近年の落ち込みからは若干の回復。

■ 農機需要〔業界出荷〕(主要9機種・移動年計)



※主要9機種:トラクター、コンバイン、田植機、耕耘機、乾燥機、籾摺機、バインダー、ハーベスター、トリートメント

出所:日農工出荷統計より当社推計

*コメの相対取引価格:農林水産省が一定規模以上の出荷業者を対象に相対取引価格・数量を毎月調査し、米の取引価格の代表となる指標の一つとして公表している。

(国内農機需要)

- ・上期は農機メーカー各社が実施した価格改定により改定前の駆け込み需要が全体を押し上げた。
- ・足許では米価の下げ止まりも見られ、農機需要は近年の落ち込みからは若干の回復。

<p>■ 令和6年度 農林水産関係予算概算要求</p> <p>【農機需要、売上に関係のある施策例】 ()内は前年当初予算額</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 強い農業づくり総合支援交付金 ◆ 持続的畑作生産体系確立事業 ◆ みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業 ✓ 内、スマート農業総合推進対策事業 ◆ みどりの食料システム戦略推進総合対策 	<p>2兆7,209億円</p> <p>176億円(120億円)</p> <p>32億円(一億円)</p> <p>68億円(32億円)</p> <p>32億円(12億円)</p> <p>30億円(7億円)</p>
<p>■ 令和5年度 農林水産関係補正予算</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 畑作物産地形成促進事業 ◆ みどりの食料システム戦略緊急対策事業 	<p>8,182億円</p> <p>180億円</p> <p>27億円</p>

(農政動向)

■ 令和6年度農林水産関係予算概算要求 総額2兆7,209億円

- ・「強い農業づくり総合支援交付金」は昨年比で56億円増額、新たに「持続的畑作生産体系確立事業」で32億円の要求等がなされている。
- ・昨年から施行された「みどりの食料システム法」に基づき、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立の実現に向けスマート農業への後押しが引き続き行われる。
- ・環境負荷低減への取り組みも加速していくことなどから、ロボット農機・直進アシスト機能を搭載した機種や可変施肥技術のある機種、アイガモロボなどの拡販を見込む。

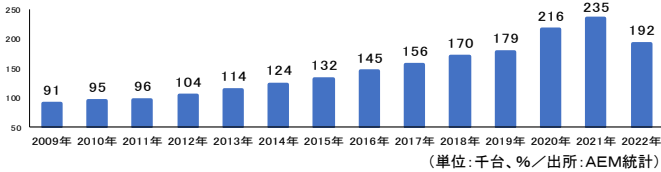
■ 令和5年度農林水産関係補正予算

- ・麦・大豆等の畑作における低コスト生産の技術導入等の支援が織り込まれている。汎用コンバイン・トラクタ・作業機など、当社にとっても商機があると考えている。
- ・「みどりの食料システム法」に関連するものも織り込まれている。
- ・物価高騰への影響緩和対策も実施されることから、需要回復につながることを期待。

北 米

1. コンパクトトラクタ市場の動向

＜市場推移＞



・2023年1～9月：前年同期比▲12%

2. AGCO社(OEM先)の状況

➢ 実売台数(2023年/1-9月) 前年同期比▲11%

3. 当社の状況

・シェア向上・売上拡大に向けたAGCO社の積極的な販促策の実施

欧 州

1. 市場の動向

・景観整備プロ向け市場は業界全体で流通在庫が適正化されつつあるが、天候不順等により需要は軟調傾向。

2. 現地の実売状況

➢ 実売台数(2023年/1-9月)

・現地販売代理店：前年同期比 ▲5%

✓ ISEKIフランス社は、過去最高売上を計上した前年同等レベルで好調に推移

3. 当社の状況

・出荷（1-9月台数ベース）

：前年同期比132% 計画比124%

・ ISEKIフランス社、 ISEKIドイツ社を核とした販売・サービスの強化

・新商品の投入と拡販を図る



HVO燃料対応の乗用モータ

（海外市場動向：北米、欧州）

＜北米＞

- ・市場動向：当社が主に供給しているコンパクトトラクタの市場は、2022年後半からの調整局面が継続し、1～9月は前年同期比△12%。
- ・AGCO社(OEM取引先)の状況：1～9月 同クラス実売は前年割れ。
- ・AGCO社では長期無金利ローンの月数を更に増やすなど、積極的な販促策を実施しており商品供給・サポートにより、シェア向上、売上拡大を図る。

＜欧州＞

- ・市場動向：サプライチェーン混乱等の影響を受けた業界全体の流通在庫は適正化されつつある。
- ・販売代理店の状況：1～9月の実売は上半期のガーデン製品の出荷遅れによる影響もあり前年同期比△5%。
足許では在庫不足が改善していることに加え、ISEKIフランス社は値上げ効果やコンシューマー商品の販売増により、過去最高の売上を計上した前年同等レベルで好調に推移。
- ・当社の状況：1～9月までの出荷状況も、出荷台数ベースで前年同期比132%、計画比124%で堅調。その他については資料に記載の通り。

アセアン

1. 市場の動向

- <タイ> 米価上昇も、干ばつ影響や資材高騰等による購買意欲減退で稲作・畑作向けともに軟調。
- <インドネシア> 政府入札が縮小傾向

2. 現地の実売状況

- 実売台数(2023年/1-9月)
タイIST社（トラクタ）：前年同期比 ▲19%

3. 当社の状況

- <タイ>
 - ・既存販売店エリア拡大、新規販売店開拓により営業カバー率向上を図る。販売店への営業支援など畑作向け販売強化
- <インドネシア>
 - ・政府入札の推進に加え一般営業（稲作・パーム等）の見込客への個別推進営業を展開中。

東アジア

1. 市場の動向

- <中国> 排出ガス規制による需要停滞でコンバイン、トラクタの需要減、乗用田植機は歩行田植機からのシフトもあり需要増。
- <韓国> 米価低迷等により稲作向けは前年より縮小も、転作奨励により畑作向け機械の需要は増加傾向

2. 現地の実売状況

- 実売台数(2023年/1-9月)
 - ・中国(東風井関)
：前年同期比 乗用田植機 ▲3%、トラクタ・コンバイン+11%

3. 当社の状況

- <中国> 排出ガス4次規制対応商品を順次投入
- <韓国> 市場規模の縮小が予想される中、付加価値のある機械（可変施肥田植機・直進アシストコンバイン等）を導入し、市場でのプレゼンス向上・販売増を狙う。

（海外市場の動向：アジア）

市場動向：資料に記載の通り。

<タイ>

- ・現地販売会社（IST社）の状況：農機需要は弱含みで、現地IST社の実売も大幅減。今後、天候とともに政権支援等の動向にも注視しながら、既存販売店のエリア拡大、新規販売店追加による営業カバー率向上、サトウキビ・キャッサバなど畑作農家向け販売強化などの施策を一層進め、挽回を図る。

<インドネシア>

- ・当社の状況：入札の推進に加え、一般営業、具体的には、稲作のみならず、パーム農園向けなど見込客への個別推進を展開中。

<中国>

- ・中国東風井関の状況：1～9月の実売は、自主ブランドが伸長するも、排出ガス規制対応機の投入が遅れ東風井関ブランドの乗用田植機が前年同期比減、トラクタ・コンバインは前年同期比増で推移。

<韓国>

- ・可変施肥田植機や直進アシスト機能など付加価値の高い機械を導入し、販売増を図る。

3. 2023年12月期 業績予想



2023年12月期 連結業績予想



連結業績予想

【前回予想比】

国内売上高：価格改定実施に伴う反動減などによる農機製品の減少
 営業利益：国内売上高の減に伴う売上総利益の減少

※1 当初予想：2023年 2月14日公表予想
 ※2 前回予想：2023年 8月 9日公表予想
 ※3 今回予想：2023年11月14日公表予想

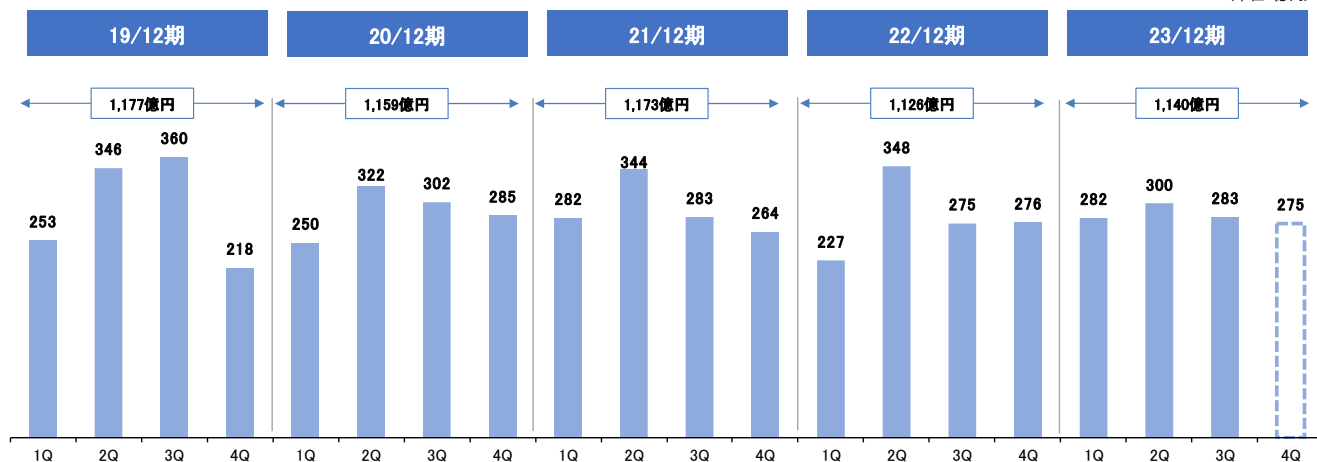
(単位:億円)	19/12期	20/12期	21/12期	22/12期	23/12期			前期比	前回 予想比
	実績	実績	実績	実績	※1 当初予想	※2 前回予想	※3 今回予想		
売上高	1,498	1,493	1,581	1,666	1,765	1,765	1,690	+ 23	△ 75
(国内)	1,177	1,159	1,173	1,126	1,215	1,215	1,140	+ 13	△ 75
(海外)	321	333	407	539	550	550	550	+ 10	0
営業利益	27	20	41	35	45	45	25	△ 10	△ 20
率	1.8%	1.4%	2.6%	2.1%	2.5%	2.5%	1.5%	△0.6%	△1.0%
経常利益	11	17	46	37	40	40	23	△ 14	△ 17
親会社株主に帰属する 当期純利益	7	△56	31	41	26	26	5	△ 36	△ 21
為替平均レート (円)	米ドル	109.3	107.0	109.0	131.3	130.0	136.8	+8.0	+2.5
	ユーロ	121.6	121.5	129.8	136.9	140.0	146.5	+11.4	+1.8
期末配当(円)	30	0	30	30	30	30	30	-	-

(連結業績予想)

- ・第3四半期までの実績及び足元の状況等を踏まえ、通期業績予想を修正。
- ・売上高は、海外では想定通りの進捗を見込む一方、国内では市場環境が厳しい中、価格改定実施に伴う反動からの回復遅れなどによる農機製品の減少を見込む。全体では前回予想比△75億円の1,690億円。
- ・営業利益は、国内売上高減少に伴う売上総利益の減少などにより前回予想比△20億円の25億円を見込む。
- ・経常利益は、△17億円の23億円の見込み。
- ・当期純利益は、△21億円の5億円の見込み。
- ・期末配当は30円予想(変更なし)。

国内売上高

(単位: 億円)



23/12期見通し

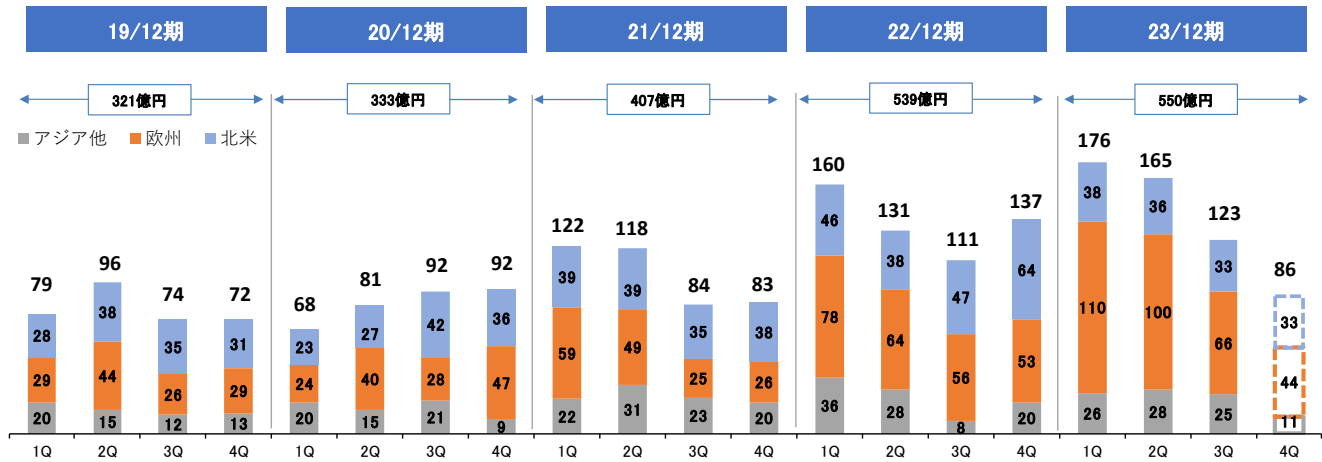
- ✓ 1Qは価格改定前駆け込み需要を捉え前年同期比増収も、2Qはその反動により上期では微増
- ✓ 3Qは新商品等で増収を計画も、前年同期比微増
- ✓ 4Qは前年同期並みで、通期では前期比微増にとどまる見通し

(国内売上高)

- ・第3四半期期は新商品等で増収を計画も、前年同期比微増。
第4四半期も前年同期並みの見込みで、通期では前期比微増にとどまる見通し。

海外売上高

(単位: 億円)



23/12期見通し

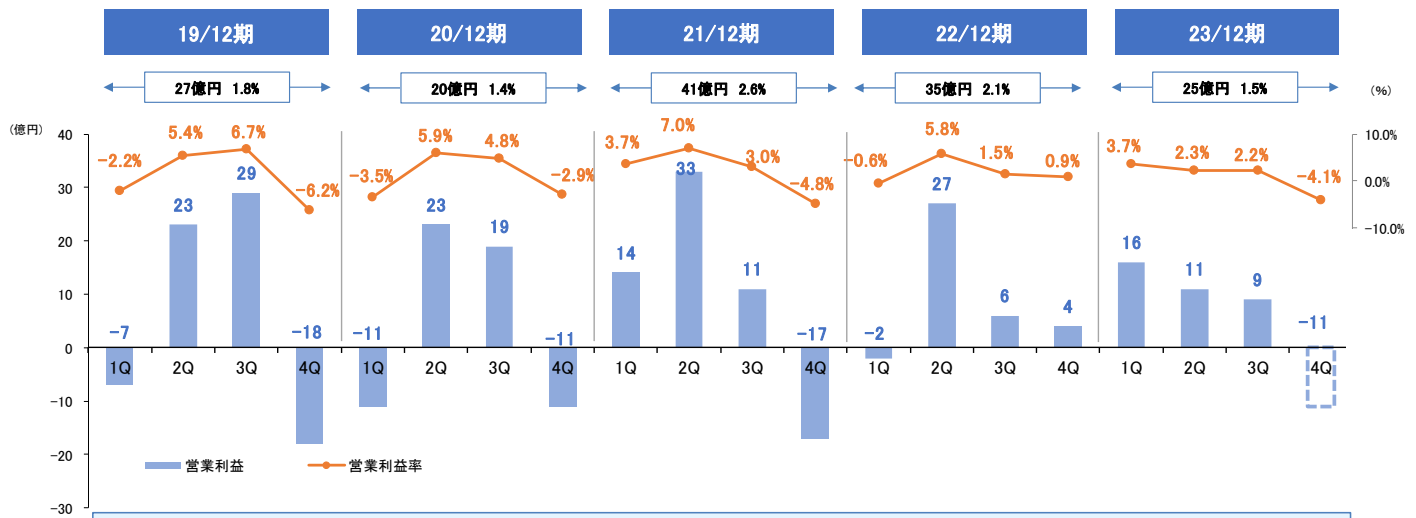
- ✓ 円安の影響はあるものの、連続して最高売上高更新の見通し
- ✓ 4Qは主に北米の減が起因し前年同期比減少

(海外売上高)

- ・海外売上高全体では、過去最高の前期を上回る550億円を見込む。
- ・北米は調整局面が継続しており前年同期比減少。
- ・欧州は、第4四半期は前年同期比減少を見込むが、第3四半期までに大幅に先行しており、通期では前期を上回る見通し。

四半期別業績見通し

営業利益、営業利益率



23/12期見通し

- ✓ 1Qは価格改定前駆け込み需要を捉えた国内売上高増により増益も2Q以降反動減
- ✓ 4Qは売上減少もあり赤字見通し、通期で前期比減益

(営業利益)

- ・第4四半期は、主に減収による売上総利益の減少により△11億円の
見通し。

■ 構造改革「プロジェクトZ」の設置（2023年11月14日付）

- ・目的: 次の100年に向けて、開発・生産・販売の抜本的構造改革を実施
- ・構成: 「プロジェクトZ」リーダー 代表取締役専務執行役員 小田切 元
「プロジェクトZ」副リーダー 執行役員 高橋 一真

■ 「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」

- ・検討中 (2023年11月14日CG報告書掲載)
- ・2024年2月開示予定 (期末決算発表時)

(お知らせ)

■ 構造改革「プロジェクトZ」の設置

- ・当社は2025年に創立100周年を迎える。次の100年に向けて、同プロジェクトが中核組織となり、開発・生産・販売における抜本的改革を推進する。
リーダー: 代表取締役専務執行役員 小田切元

■ 「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」

- ・東京証券取引所より、PBRの改善に向け、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」を要請されている。
- ・当社のPBRは、0.4倍と低い水準にとどまっている。
- ・現在、現状分析と検討を進めており、2024年2月の2023年12月期決算発表時に開示を予定。

4. トピックス

■ 農業食料工学会「2023年度開発特別賞」を受賞

<受賞内容> **にんじん収穫機 クレーン仕様の開発**

野菜作の高能率化

【市場ニーズに対応】

- ・クレーン式の荷下ろし機能の開発
→収穫したにんじんの入ったフレコンバックの荷下ろし時間の短縮



にんじん収穫機VHC114-RFC

(トピックス)

■ にんじん収穫機 クレーン仕様の開発が農業食料工学会の「2023年度開発特別賞」を受賞。

- ・クレーン式の荷下ろし機能により、収穫したにんじんが入ったフレコンバックの荷下ろしが容易となり、荷下ろしの軽労化、作業時間の短縮を実現。
- ・にんじんの生産は、野菜の中でも作付面積が大きく機械化が進む。市場ニーズに対応した野菜作の機械化を通じて、生産性向上に貢献していく。

新商品発表のご案内

- ✓環境負荷低減に貢献する商品・取り組み
- ✓「食」分野に貢献する商品
- ✓農業の生産性・快適性向上に寄与する商品 等



発表日時	2023年12月14日(木) 13:15~15:00 (予定)
コンセプト	「環境負荷低減」と「食」への貢献 農業の生産性・快適性向上
形式	・リアル開催：茨城県つくばみらい市 ・ホームページ、メディア発表

(トピックス)

- 新商品発表会をつくばみらい事業所にて開催
- ・「環境負荷低減」と「食」への貢献、農業の生産性・快適性向上に寄与する商品や取り組みをご紹介予定。

- ・本資料は、情報提供を目的として作成しており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・本資料は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が作成したものでありますが、潜在的リスクや不確実性が含まれており、経済情勢や市場動向の変化等により実際の結果と必ずしも一致するものではありません。
- ・ご利用に際しては、ご自身の判断でお願い致します。

本資料に掲載している業績予想や目標数値に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。



未来の
ために、
いま選ぼう。

井関グループは、
環境省による地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を
促す国民運動である【COOL CHOICE】の取組みに賛同しています。
「賢い選択」の提案として「エコ商品」など
環境に配慮した商品の開発普及を推進しています。

食から日本を考える。

**NIPPON
FOOD
SHIFT**